

## 広島平和記念式典中学生派遣研修の報告

阿賀野市が主催する「広島平和記念式典中学生派遣事業」に、当校から3名の生徒がこの事業に参加しました。8月25日(金)の2学期始業式では、派遣生徒3名が、実際に広島を訪れて感じた戦争の悲惨さや、平和な社会を築いていくことの大切さについて感想を述べました。

### 広島平和記念式典中学生派遣事業に参加して

3年男子、3年女子、3年男子

私たち3名は、8月5日(土)・6日(日)に市の広島平和記念式典中学生派遣事業の学校代表として、市内の他の中学校の生徒と一緒に、広島に行ってきました。

私(3年女子)は広島での2日間を通して、普段の生活のありがたみや、平和の大切さを改めて感じることができました。私は幼い頃から、「はだしのゲン」を読んだり、原爆の絵を見たりしていました。加えて、中学校の勉強で広島原爆について学んだので、行ったことはないものの、広島や戦争について既に知った気持ちになっていました。しかし、実際に広島を訪れてみて、私が想像していたよりも悲惨な状況だったことを知り、言葉を失いました。原爆ドームは、建物の骨組みが飛び出し、壁が崩れたままになっていました。その惨状は、見るに堪えないものでした。原爆が投下された直後、原爆ドームの周りは炎に包まれ、苦しむ人々が大勢いたそうです。想像するだけで恐ろしいと思いました。その後、現地ガイドさんの説明を聞きながら、「原爆の子の像」や「平和の灯」など、原爆に関する様々な場所を歩き回りました。

私(3年男子)が訪問で一番衝撃を受けたのは、「広島平和記念館」です。全身に火傷を負った人の写真や、放射線の影響で髪の毛が抜けてしまった人々の写真が展示されていました。その中で、特に心が痛んだのは、ボロボロになった当時の子供服が実際に展示されていたことです。何の罪もない子供にまで被害を及ぼした戦争の悲惨さを改めて感じました。78年前は、疎開をしていた人も広島に多くいたそうで、そこに原爆が投下されたため、広範囲にわたって多くの死傷者が出ました。原爆には、それほど多くの人を傷つける強い力があることを実感し、「力」の使い方を、決して間違っははいけないのだ、ということを感じました。

今回の研修を通して、私(3年男子)が一番強く感じたことは、「核兵器は、命を一瞬で奪うものである」ということです。このような悲劇は、二度と繰り返してはいけなと、改めて思いました。日本は世界で唯一の被爆国です。しかし、広島や日本という枠組みに限らず、世界全体に、「核兵器を使わない、持たない」といった考えが広がってほしいと思います。

現代では、世界中で核兵器が増え続けています。このままでは、悲劇が繰り返されてしまうかもしれません。そうならないように、核兵器を世界中からなくすことや、戦争のない平和な社会をみんなで築いていくことについて、一人一人が考えていければと思います。



原爆ドーム/広島/ken

8月24日(木)

PTAかき氷ふるまい

コロナ禍のため、数年間実施できなかった「PTAかき氷ふるまい」を今年度は実施することができました。部活動を終えた1,2年生、単元別テストを受検した3年生らが一瞬の涼を得て、楽しそうにしていました。

